

**令和6年度  
勝山市中高一貫教育推進協議会  
協議のまとめ**

**令和7年3月  
勝山市中高一貫教育推進協議会**

## 1 勝山市における中高一貫教育のあゆみ

令和6年11月 勝山市中高一貫教育推進協議会設置

## 2 勝山市中高一貫教育推進協議会がめざすもの

### (1) 中高一貫教育の目標

- 確かな学力を育成するとともに生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす
- 中高生の交流、教職員の連携により、中高の学校教育の活性化を図る

### (2) 勝山市立中学校建設基本計画に掲げた教育の目標

予測不可能といわれる時代を担う子どもたちに身に付けさせたい力を育む

- 豊かな情操や自己肯定感、他者への思いやり
- 社会性や人間関係を構築する力
- 他者と協働して主体的に学ぶ力
- 知識を活用して課題の解決を目指す力

目指す生徒像 4つのC

- |                            |               |
|----------------------------|---------------|
| ① 何事にも自信を持って粘り強く挑戦し学び続ける生徒 | Challenge     |
| ② 多様な他者と協働し主体的に考え行動する生徒    | Collaboration |
| ③ 自分と他者のよさを認め尊重し関わり合う生徒    | Communication |
| ④ 自分らしい生き方を考え将来をデザインする生徒   | Career        |

目指す学校像

- 「新しい時代に生きる力を育む学校」  
自ら考え、他者と協働しながら課題を解決していく主体的な学びを支援する学校
- 「夢や希望の実現を支援する学校」  
個性や能力を伸ばし、目標に向かって自ら粘り強く挑戦することを支援する学校
- 「ふるさと勝山への誇りと愛着を育む学校」  
地域とつながり、豊富な体験活動を通じたふるさと勝山の学びを支援する学校
- 「安全・安心で保護者や地域から信頼される学校」  
互いに認め合い尊重し合って、生き生きと学校生活を送ることを支援する学校

連携型中高一貫教育を生かした特色ある教育内容

- ① 探究的な学習
- ② 高校教員によるサポート授業
- ③ ライフデザインタイム
- ④ 生徒主体で進める学校行事・特別活動・部活動
- ⑤ ICT環境の充実と効果的活用

### 3 諸会議の開催状況と協議内容

#### 令和6年度 勝山市中高一貫教育推進協議会 諸会議実施報告

年	月	日	曜日	事業	場所	時間
令和6年	11	29	金	第1回勝山市中高一貫教育推進協議会	教育会館会議室	10:00～
	12	10	火	第1回中高一貫教育推進委員会	教育会館会議室	16:00～
	12	25	水	第1回勝山市中高連携推進委員会 英語部会	教育会館会議室	14:30～
令和7年	1	28	火	第1回勝山市中高連携推進委員会 教育課程部会	勝山南部中学校校長室	15:00～
	1	30	木	第1回勝山市中高連携推進委員会 生徒支援部会	勝山中部中学校校長室	15:00～
	2	12	水	第1回勝山市中高連携推進委員会 進路支援部会	勝山北部中学校校長室	15:30～
	2	13	木	中高一貫教育意見交換会（校長会）	教育会館	9:15～
	2	18	火	中高一貫教育意見交換会（教頭会）	教育会館	14:00～
	2	26	水	第2回勝山市中高連携推進委員会 生徒支援部会	勝山中部中学校校長室	15:00～
	2	27	木	第1回勝山市中高連携推進委員会 数学部会	教育会館会議室	15:00～
	3	5	水	第1回勝山市中高連携推進委員会 探究部会	勝山高校探究ルーム	15:00～
	3	14	金	第2回中高連携推進委員会	教育会館会議室	15:00～
	3	19	水	第2回勝山市中高一貫教育推進協議会	教育会館会議室	10:00～
	3	25	火	第2回勝山市中高連携推進委員会 英語部会（予定）	教育会館会議室	13:30～

#### (1) 教育課程部会記録

令和7年度年間計画の調整について

##### ○学びの祭典（7月）

- ・7月11日（金）午前中にジオアリーナにて開催

##### ○勝高ラウンドテーブルⅠ（10月）

- ・中学生の参加はなしとする。

##### ○勝高ラウンドテーブルⅡ（2月）

- ・R8 2月10日（火）を予定。勝山高校の教室を活用。中学2年生全員が参加するのは今年度（R6）がはじめて。今年の実績をみて次年度の参加形態については検討

##### ○その他

- ・連絡を早めをお願いしたい。連絡を受けたあと、中学校は班編成や事前指導を行う。時間的な余裕がほしい。
- ・連絡は管理職へ送付してほしい。高校は部会などが中心に動いていると思うが、中学校は学校全体で動いている。担当者（総合主任など）に連絡が入っても、その行事に関わっていない場合もある。教頭・校長に連絡が入る方が徹底しやすい。

#### 勝山高校生の中学校訪問について

- ・勝山高校ワーキングチーム会議の企画であり、勝山高校このことを早い時期から中学生に知ってもらい、より多くの中学生に勝山高校へ進学してもらうことが目的。
- ・早い時期から、将来を見据えて進学先を考える指導をするとのことであれば、対象とする中学生は1年生のほうが良いのではないか。
- ・1年生を対象にするのであれば、日本文化部の太鼓など、パフォーマンスを見せて憧れを抱かせるなどしないと1年生ではピンとこないのではないか。
- ・実施方法については、より子どもたちの心に届く方法を考えると良いが、時期的には、今年度2年生対象に予定している3月18日（火）ころが良いのではないか。

#### 校時表について

- ・勝山高校と時程を併せることは決定事項か。過去、荒れた中学校に勤務した時の経験だが、荒れが学年を超えて拡散しないように学年ごとに時程を変え、休み時間が揃わないようにしたことがある。校舎を共有して中高生が生活することを考えるとうまくいかなかったときに、休み時間が中高で揃っていて大丈夫か気になる。
- ・チャイムは中高一斉なのか、別々なのか。
- ・中・高の放送設備（チャイムを含む）は中・高別々に設置。共用する教室についてはスピーカーが2つ付くことになり、チャイムについては中・高で協議の上、どちらのスピーカーから出力するかを決める。
- ・勝山高校の校時表に合わせた場合、給食の時間が問題。中学生には昼休みをとり、給食の遅い子への配慮が必要。
- ・ワーキング会議では、素案として高校の昼食・掃除・STの時間と合わせる形で、中学生は給食・昼休みを含めて60分程度をとることとし、高校7校時目に中学校の帰りの会を入れた案を提案している。高校生が掃除をしている隣で中学生が遊んでいることになるが、高校生の掃除場所を中学生の活動のない場所にするなど対応できるのではないかと考えている。
- ・高校の校時表は探究科設置の時に、放課後活動にスムーズに入れるように掃除・STをお昼に入れようと決めたもので中学校が来ることで変更することができないわけではない。
- ・始業時の8時20分登校完了、8時40分1校時開始は決定か。
- ・バスの時間と連動しているため、この時間をお願いしたい。ただしバスも現在検討が進んでいるところであり、今後どのように決定するかは左右されることもあるかもしれない。
- ・開扉の時刻はどうか。
- ・高校は警備員が常駐することもあり、かなり早い時間から登校し朝練習をしている。
- ・中学校は、生徒が入る以上、先生が出勤しているべきとの考えから、原則7時40分より早くは開扉しないこととしている。
- ・可能であれば中学校と高校は合わせるべきではないかと思う。

#### その他

- ・勝山高校に対して中学生が魅力を感じるかどうかは、今年の高校3年生の進学状況が大き

く影響すると思う。勝山高校生や先生方には是非頑張っていたきたい。

- ・今年度の高校3年生も頑張っている。結果がまだ出ていないので具体的なことは言えながきっとよい結果を出してくれるものと期待している。
- ・勝山高校生が難関大学などへ進学することに中学生が魅力を感じるということであれば、このような勝山高校卒業生の話を中学生が聞くことも効果的なのではないか。
- ・高校3年生が難関大学などに進学した卒業生から話を聞く機会を設定している。この中に中学生が入り、話を聞くこともできるかもしれない。

## (2) 生徒支援部会記録

### 部活動の交流について

#### ○部活動(中学校)と活動場所について説明(別紙資料)

- ・グラウンドについては野球(中学)とサッカー(高校)陸上が使用。サッカー(中学)の使用も可能であれば追加。難しければ西小
- ・体育館(第1第2)については男女バレー(中学 高校)とバスケット
- ・ジオアリーナで男女バド(中学 高校)・長山グラウンドは野球
- ・テニス(中学・高校)は学校・市営・水芭蕉 ・その他は校舎
- ・活動時間は中学は4時から5時半 高校は4時45分から7時

#### ○予想される課題

- ・現状では、ジオアリーナの使用について社会教育団体との調整が難しく、バドミントンが占有できる状態ではない。このため、バドも第1・2体を使用しているため(別紙)、中学校が入る余裕がない。
- ・冬場になると、外の部活動が入ることになるが、余裕がないため場所を譲るなど特別な配慮はしていないのが現状。
- ・中学校・高校が行事をそろえないと、授業と部活動がバッティングすることになる。教育課程部会の案件だと思うが日程調整をしっかりと必要がある。
- ・中学校は令和8年夏以降、休日の活動を行わないこととしている。この方針に加えて、地域移行した種目については部活動を設置しないこととすれば場所の問題は解決するのではないか。
- ・勝山中学校開校後の現三中学校の体育館などの活用方法は未定であるが、もし活用できるのであれば有効に活用するとか、ジオの活用についても地域団体の理解を得ながら徐々に学校の活用を優先してもらうとか、勝山高校にとっても中学校と連携してよかったと感じてもらわなければならないと考えている。

#### ○中高で交流できると思われる部活動

- ・先般のワーキング会議では、高校の顧問の意向によるが中高が一緒に練習することも可能な部もあるかもしれないとのことであった。バドや日本文化部など早くから一緒に活動することで、勝山高校への進学を促すこともできる。可能な範囲で顧問の意向を聞いてほしい。

### 通学方法について

#### ○再編準備委員会の決定内容説明

資料により、バス、自転車、徒歩による登校ができるよう計画中であることを説明。計画の基本的な考え方は保護者送迎に頼らずとも登校できる安全なシステムを作ること。送迎については現勝山高校玄関側は中・高ともに自家用車の乗り入れを制限しすべてジオアリーナ側に来てもらうこととしたい。教職員の駐車場もジオ駐車場にする予定。

自転車通学については、どの範囲の生徒を対象とするかについて課内でも検討中。本部会においても検討課題に加えてほしい。自転車小屋については現勝山高校の自転車小屋に余裕があれば中学生にも使用させたい。またジオアリーナ側の自転車小屋も使えないかと考えている。バスについては、朝1便、夕方2便とする。現時点では朝は勝山高校と合わせて8時20分登校完了、8時40分1校時開始を想定している。夕方については部活動のない生徒に対して4時30分頃と部活動を終えた6時頃を想定。高校生の用も可能にしたいと考えている。昇降口については、西側（高校生下足箱）、東側（中学生下足箱）の2つを設置し、中・高生どちらから登校しても良いが、下足箱が侵入経路と反対になる場合は、屋根付き廊下を通してそれぞれの下足箱へ向かうことにする。

#### ○予想される課題

- ・登校時の対応として、ジオアリーナ側に先生に立ってもらい自転車小屋や通路の安全指導が必要になるだろう。死角ができないようにしなければならない。
- ・ジオアリーナ周りのバスが通る部分と生徒動線が近い。歩道レーンを1本に指定するなどして安全確保が必要。もしここに自転車を止めるとなれば一層注意が必要。
- ・勝山高校生の自転車小屋は現在3棟を学年別に使用している。もしジオ側に駐輪所ができるのであれば、これを見直し高校生も通学ルートに合わせてジオ側にも止められるようにしてもらえるとありがたい。
- ・部活動を終えた高校生が下校時にバスを利用できないことは仕方がないと思う。登校時だけ利用可となれば保護者に頼る生徒も減らないだろう。

#### 下校について

- ・バスの下校はある程度時間がばらつくこととなると思うが、送迎待ちを含めて生徒の待機場所を決めておく必要があるのではないか。
- ・離れた場所で待っているといつバスが到着したのか分からない。ジオで待っても、校舎で待ってもバスが到着したことをうまく伝えることができるか気になる。他の市町ではバスロケーションシステムが導入されているところもあると聞くが、この辺りはどうなるのだろうか。
- ・自転車での下校について、バスを走らせるのなら基本的には自転車を使わないようにすることを基本として、自転車通学の許可を考えるべきではないか。
- ・自転車通学を許可する生徒の範囲については、1.5キロ以上はバスと同じであるが、遠方については遠すぎる生徒については安全上、許可すべきではないと考えている。この範囲をどれほどにするかは、自転車小屋の収納スペースとあわせて検討しなくてはならない。
- ・自転車のヘルメットの着用は中学校は従来通りヘルメット着用を必須とするが、高校はどうするか。

- ・高校も令和8年度より義務化する予定。
- ・盗難防止のための施錠はどうなっているか。
- ・高校も施錠を呼びかけているが徹底しているわけではない。また登録のシールも中学校と同じように高校も張っている。
- ・自転車の形について高校は何かルールがあるか。
- ・特にルールはないが変形の自転車は見たことがない。
- ・徒歩通学については通学路の届け出は必要だろう。
- ・下校方法について意見を出し合ったが、これらをまとめた登下校時のマニュアルが必要になると思う。
- ・バスに乗り遅れた場合の対応として、公衆電話が必要になるのではないか。
- ・スマホの持ち込みの可否も協議すべきではないか。
- ・高校の場合はスマホの所持は禁止していないが、校舎内では使わないことをルールとしている。

#### ○学校生活上のルールについて

- ・自動販売機の活用。中学生が使わない校舎にあれば問題ないのだが。
- ・校舎の中高生の出入りについて制限する必要があるのではないか。
- ・交流する場所や共有する教室以外は、特に制限しなくても行かないのではないか。高校の教室棟に中学生が行く必要はない。
- ・玄関は中高別だが、遅刻した生徒の入室はどうするか。中学校場合は遅れた子はインターフォンで職員室へ連絡して玄関を開けている。高校はどうか。
- ・高校は生徒玄関のうち端の開き戸を開けている。ここから出入りし生徒支援部が遅刻としている。
- ・施設がどのように整備されるかにもよるが、中高生ともに遅刻した生徒が、どこから、どのように入校するかを決めておく必要がある。

### (3) 進路支援部会記録

#### ○ 県教委指導主事より

##### キャリア教育に関する県の取組方針について説明

- ・新しい教育大綱の中で重視する力としてキャリア形成力を上げている。
- ・キャリア形成力は県内各地の小中学校で取り組まれている「ふるさと教育」を基礎としていると考えている。
- ・キャリア教育はすべての学習活動の中で育まれるものであるが、小中学校でのふるさと教育は子どもたちのキャリア形成につながっており、中・高のキャリア教育につながるものである。
- ・キャリア教育を通して育てようとしている力は夢へのパスポートのなかで、4つの力（みんなと協力する力、課題に挑戦する力 自分を知る力 進路を選択する力）として小学校低学年 高学年 中学生のように分かりやすく示している。

○ 各校のキャリア教育の現状について

- 南部中 1年生 産業フェア参加 職業調べ 産業フェア  
2年生 ようこそ先輩 14才の挑戦 高校調べ 立志式 職業適性検査  
課題：1年生からつなぐ必要がある
- 中部中 1年生 進路調べ 職業調べ 産業フェア  
2年生 ようこそ先輩 探究（ふるさと発掘部） 職業適性検査 立志式  
課題：調べた内容が自分ごとになっていないように感じる
- 北部中 1年生 ふるさと再発見 産業フェア 職業インタビュー（冬休み）  
ようこそ先輩 職業調べ  
2年生 ふるさと再発見 職場体験 立志式 高校調べ 高校生との交流  
職業適性検査  
3年生 修学旅行（勝山にはない企業訪問）
- 勝山高校 1年生 職業キャリアガイダンス（約60企業が参加）  
課題 希望の職種の話をもつと聴くこととしているが選べない生徒が多い  
2年生 進路ガイダンス 進学したい大学を具体的に決める  
3年生 推薦対応  
課題 総合選抜もあり、探究テーマとキャリアをつなげる必要性を感じる。

○ 協議

諮問内容 各中学校から報告された進路選択の実態として「高校から特色選抜などで声をかけられると安易に進路希望を変えてしまう」という話を聞くと、中学校の早い時期からの進路指導がカギだと感じる。単なる進学先としての高校選択だけでなく、高校卒業後の自分の生き方を1, 2年の間から考える進路指導を考えてほしい。

- ・ 2年生の段階で勝山高校生と話をする機会を持ったり、ラウンドテーブルに参加したりするなど、新しい活動が効果的に動き始めている。この流れを維持していけばいいのではないかな。
- ・ 先日データを取ったところ、進路決定に大きな影響を与えているのは保護者の言葉と答える生徒が最も多かった。残念ながら先生の指導は下位の方である。自分で進路をきめることができているようである。
- ・ 今回、南部中の探究発表会に高校生を招いた。中学生にとっても良かったと思う。高校生が学校で大学生などから話を聴くときに、リモートで中学生も聴けるとよい。
- ・ オープン参加の形にして興味のある子から始めると良い。
- ・ 今年の生徒の様子を見ると、強い部活動から声をかけられると動いてしまう。子どもにとっては自然な発想かと思う。
- ・ 子どもたちは高校卒業後の先々のことまで考えているか。
- ・ 考えていると思う。

#### (4) 英語部会記録

##### ○授業研修会

小・中学校の英語の授業の様子を動画を視聴。気づいた点を共有し、自校の授業改善にどう生かすかについて意見交換

##### ○協議内容について

- ・中高 ALT を互いの学校でも活用できないか。
- ・中高の生徒同士が互いの授業で活躍できる場面はないか。
- ・ディベート等、高校生の活動を中学生も見学したり体験したりできないか。
- ・イングリッシュキャンプなど英語漬けの環境を企画できないか。
- ・英語検定や GTEC など目標として設定してはどうか。

#### (5) 数学部会記録

- ・理数グランプリの問題を中高生が一緒に解くことも良いのでは。
- ・数学オリンピックにつなげることも考えられる。
- ・計画では数学は高校教員が TT として中学校の指導に入り少人数習熟度別クラス編成をすることも検討されているようである。それならば、上位クラスには高校レベルの発展問題を、中下位層には基礎練習のような組み方を、単元の中に設定することはできるかもしれない。  
例  $y = ax^2$  の指導時に  $y = a(x-1)^2$  を紹介 因数分解の発展 円錐の体積 など
- ・クラスごとに発展学習の内容を入れた年間計画が必要。
- ・中学生が直接高校の授業を見に行く機会があってもよいのではないか。
- ・中学校 3 年生に対する放課後講座が実施できると良い。
- ・新校舎にはメディアセンターなど、中高が交流する場所設置される。ここに中高それぞれのテスト問題を掲示すると良いのではないか。高校生も中学校の学習内容を思い出す。
- ・近年の受験問題などをみると、中高ともに読解力が問われる問題が多い。生活に数学を生かす観点からだと思われるが、何を問われているのかを理解するまでの文書を読みこなせないと問題までに行きつかない。
- ・中高の先生方が一緒に中高一貫教育先進校（高志中高や金津地域）の授業を参観に行き、その内容について意見をかわす交流会等が持てると良い。

#### (6) 探究部会記録

##### ○これまでの協議の内容や進捗状況について

昨年度の 11 月に探究カリキュラム検討員会を立ち上げた。第 1 回の立ち上げ会以降は、中高連携に先立って中学校の先生方だけに集まっていたが、探究活動を通して育てるべき学力とは何なのかを議論した。資料はこの時のものである。前田先生からはこれらの力も指導に当たる先生方が実感できるものにしないといけないといった趣旨の指導ももらっている。また、ふるさと教育についてもジャンルを限定するのではなく、探究成果をふるさとへ返していくスタイルが良いのではないかとアドバイスもいただいている。

今年度は前田健志先生を講師として、三つの中学校において各校の先生方を対象に探究学習

についてのワークショップを開催したところ。今年度は三つの中学校の実践が光った。まず北部中学校は新聞を使った学習である NIE 実践で全国最優秀賞を受賞している。長年の活動が評価されたわけで、探究の視点から言えば新聞を読んで意見を交換する活動はミニ探究の繰り返しトレーニングになっていると感じている。また、中部中学校が取り組んだミチノクフクジュソウの啓発活動や、野向のエゴマ普及など、小学校の取組を中学校に発展させる活動は小中連携の特徴的な取組だと感じており中学校 1、2 年生時の課題として良いのではないかと思っている。さらに南部中学校においては昨年につき 3 年生の南部中学校版ラウンドテーブルが開かれた。勝山高校の発表に感化を受けた中学生が自分たちにもできると考え取り組んでいるもので、発表内容や態度も高校生に引けを取らない様感じた。これ等を生かす活動として、別紙のような 6 年間のストーリーを考えてみた。素案であるがこれ等の資料も参考に積極的な意見の交換をお願いする。

#### ○各校の情報交換

- ・勝山高校は 2 年前から個人探究にしている。以前はグループ探究にしていたがグループの課題としてフリーライダー（何もしないで成果のみを自分のものにしてしまう生徒）が発生してしまうことから個人探究に取り組むことにした。個人探究の発表の場として 3 年生の最終発表会となる学びの祭典を 7 月に開催。ここには地域の様々な人材を講師としてよんでいる。10 月には 1 年生のテーマ設定と 2 年生の進捗発表会となるラウンドテーブル 1 を開催、また 2 月には 1、2 年生それぞれの中間報告となるラウンドテーブル 2 を開催している。ここには様々な方に来ていただいている。この他に大学のリレー講座やキャリアガイダンスなども行っている。
- ・各学年の取り組みが中心で全校的に枠組を決めているわけではない。1 年生はグループでふるさと関連題材をテーマとしている。2 年生は個人探究の形で自分は将来どうなりたいかをテーマにしている。3 年生は 2 年前から個人探究発表会を行っている。まだまだ、さぐりさぐりの状態である。実践を通してこれから必要な力をつけられたらと思う。
- ・中部中も各学年の活動が中心になっている。1 年生は勝山の魅力を知るというテーマで小学校からのつながりで、左義長・エゴマ・ミチノクフクジュソウについて、出身小学校をといて情報を共有している。2 年生はこの発展形としてフィールドワークに入っている。地域を P R する活動としてショッピングセンターで広報活動をしたり、公民館の行事に参加したり発表したりしている。3 年生は修学旅行先で地元を P R するパンフレットを配ったりしている。
- ・北部中も各学年の活動が中心になっている。1 年生は地域について学ぶことをテーマとして、3 年生の個人探究基礎となる力をつけている。2 年生は地域を学ぶことに変わりはないが県外の学校へ地域の紹介をしている。3 年生は東京と勝山を比較したポスターを 1 人 1 枚作成しポスターセッションを行っている。
- ・今紹介してもらった実践の中で、これはよかったと感じることをあげてほしい。
- ・ソフトを活用してプレゼン資料を作ることができるなど、スキル系の指導は共有した方が良い。
- ・カリキュラムを作る場合には、最低これだけは身につけてもらいたいというミニマムの視点

のものともここまで出来たら理想的というマキシマムの視点が混在する場合が多い。ソフトを活用してスライドやフォームをつくることのできるといったスキルは、できたできないの評価もはっきりできるので分かりやすくミニマムの指導として共有することは良いと思う。ただし探究学習がスキルの習得のためだけではなく資料にあるコンピテンシーについても考える必要がある。探究の成果をなんとするか、どう見取るかも重要。

- ・その視点ではポスターセッションを通して一人でしゃべる力が付いたように思う。東京と勝山を比較する実践を紹介したが一人1枚の資料を作成したので、全員それなりに話すことはできていたと思う。
- ・修学旅行でパンフレットを配った実践を紹介したが、このパンフにQRコードをつけたところ、全国から様々な意見が返ってきた。これを読む生徒の姿は生き生きしていた。生徒の活動に対してフィードバックが返ってくるシステムをつくと良いと思う。
- ・フィードバックがあることは生徒の有用感などを高める。比較的低学年では肯定的な意見ももらおうと次の活動意欲につながるが、学年が高くなった場合はある程度否定的な意見もあると、今後の発表に対する批判になれるワクチ的な役割も期待できる。辛辣な意見に慣れておくと批判に強くなる。悪者は外部の人になってもらうのが良い。
- ・ラウンドテーブルに対する生徒の意欲も高く、発表や質問の様子も良かったとの声はあったが、反面、これで何の力が付いたのかを疑問視する声も聴かれた。
- ・今後、協議を進めることになると思うはが、今、発言していただいたように先生方が「うまくいった」「本当に力が付いた」と感じる事例をあげながら方向性を共有していくことが有効だと思う。

#### ○先進校事例の紹介

まず紹介するのは、神戸大附属中学校。資料をもらったが分かりにくいので作り直した。この学校では総合の中で育てる力を3能力4要素としてまとめている。3能力を基礎力 思考力 実践力とし、基礎力としてI知識・概念 II技能を設定し、思考力にはIII論理的・批判的・創造的思考を設定。また実践力にはIV自立・協働・創造の力を設定している。この考え方を柱として1, 2年生時(中学校1, 2年生)を基礎期、3, 4年生時(中3 高1)を、充実期 5, 6年生(高2, 3年生)時を発展期としてそれぞれに活動内容を決めている。これを一覧表にしたものが別紙資料であり、各カテゴリーは文科省の3観点とリンクさせている。

次に紹介するのは東京都立南多摩中等学校。この学校は探究学習とキャリア教育を連動させているところがポイント。探究をフィールドワーク活動と呼び、この活動では学校が育てる7つの創造力のうち、発信する力 論理的に思考する力 情報を収集・整理・分析する力 課題を設定する力の4つをまとめて探究力としている。この力をそれぞれに育てるための活動を系統的に一覧表にまとめている。この探究と合わせて、進学プランとキャリアプランを連携させた探究カリキュラムをつくっている。卒業生の進路先も単に大学名だけでなく探究活動のテーマと進学先がリンクしている。

以上の説明をもとに2つの学校が掲げる学力と検討委員会がまとめた学力を比較し整理したいと思うがよろしいか。

- ・会議の進行に水を指すわけではないが、来年度から入学する1年生のことを考えると3中学校の足並みをそろえることを優先すべきだと考える。勝山高校へ全員が入ることはないので6年間のカリキュラムづくりを急ぐ必要はないのではないかと。
- ・冒頭にも言ったが、連携型は中学校卒業後の進路選択は自由。しかし、少子化が進む中、勝山高校進学を選んでくれる生徒を増やしたいと思う。このためには勝山高校へ行った方がよいと思えるシステムをつくるのが大切だと考えている。カリキュラムを学校が共有していることは生徒にとって勝山高校の魅力となる。
- ・勝山高校は自校のルーブリックを持っている。中ほどまでは中学校で身につけてきてほしいと思うが、実際は個人差があり、高校生でも中学生レベルの力が不足していると感じる場面もある。逆に中学生であっても高校レベルで期待されるレベル以上の力を持っている子もいる。この意味では勝山高校への進学如何にかかわらず一人ひとりの生徒の座標を取るのに、同じものを持っていると良いという考えである。
- ・どの程度までの力をつけてきてほしいと勝山高校が決めてもらえれば、中学校はそれを目標に中学校の指導を考えることができると思うがいかがか。
- ・勝山市が考える中高連携の基本スタンスは、中高の先生方が共通の目標に向かって勝山の子どもたちを育てようとするものである。中学校は高校に生徒を入れることが目標で、それ以降のことは高校の指導の問題で中学校には関係ないという考え方ではなく、中・高の教職員がともに高校卒業後の生徒の理想的な姿を具体的に描き、同じ目標に向かって、それぞれの立場での指導をお願いする意味で、共通のルーブリックは必要だと考えている。
- ・その点では、資料に書かれる目標が重要。素案には「ふるさとへの愛着を基本に」といった表現があるが、先生方が本当に子どもたちにつけてあげたい力はふるさとを愛する力なのだろうか。ふるさとに愛着をもて、愛せと言われれば愛したく無くなるものである。ふるさとという自然や文化などを取り上げることが多いが、全国そう変わるものではない。ふるさとをテーマに実践を進めるのなら、自分がこの地域に住んでいて「助けられた」とか「おもしろかった」など、ふるさとと自分が刻んだストーリーをまとめることが良いと思う。また、冒頭、発表があったように、どの中学校も小学校の取組を引き継いでいるようである。それであればカリキュラムの議論には小学校も入るべきだと思う。
- ・時間となったが、次回は5月頃に開催すると考えてよいか。
- ・結論を急ぐわけではないが、今年の4月からは2年後の3年次に統合を迎え、その後連携の対象となる中学校1年生が入学する。これを考えると、カリキュラムのうちどんな活動をするかという実践の積み上げの部分については、次年度に大きく変更する必要はないと思うが、素案の通り、中3には個人探究にチャレンジすることを各中学校で今年度中に提案してもらおうと、勝山、高校の個人探究につながると思う。評価や目標設定につながるルーブリックの作成については、5月の議論でよいと思うが、また0から始めるのではなく、先ほど、前田先生から助言のとおり、各中学校が目指している生徒の姿や、実践をやってここが良かったことなどを部会長さんに提出しておいていただけるとありがたい。

#### 4 令和7年度活動方針と活動内容

勝山の子どもたちが18歳まで地元で教育を受ける環境を維持できるよう、勝山高校と市内中学校の一層の魅力化に向け連携を進める。協議にあたっては中高の教職員の交流を深め、英知を結集して、勝山で学ぶ優位性を高めることにより、一人ひとりの生徒が勝山で学びたいと考えることができるように以下の内容をはじめとして必要な検討を進める。

##### (1) 各部会の取組

###### ①教育課程部会

中高連携 連携企画（学びの祭典（7月） ラウンドテーブル（2月）  
令和8年度年間計画 学校行事の見直し（土日開催行事 前例踏襲の打破）  
校時表

中中連携 令和7年度入学生の修学旅行（各中学1年学年会とともに）

###### ②進路支援部会

中高連携 連携生徒の選考および入学者選抜 連携プログラム  
6年間を見通したキャリア教育カリキュラム（探究部会とともに）

中中連携 令和7年度入学生のキャリア教育カリキュラム（各中学1年学年会とともに）

###### ③生徒支援部会

中高連携 通学路 通学方法（自転車通学ルール） スクールバス 生活ルール

中中連携 生徒会組織（生徒会担当とともに） 部活動編成（部活主任とともに）

###### ④探究部会

中高連携 6年間を見通した探究カリキュラム（進路支援部会とともに）

中中連携 令和7年度入学生の探究カリキュラム（各中学1年学年会とともに）

###### ⑤英語部会

中高連携 授業実践交流 探究的な学びへの授業改善 先進校視察  
習熟度別年間指導計画の作成（TTを含む）

中中連携 令和7年度入学生の教科指導

###### ⑥数学部会

中高連携 授業実践交流 探究的な学びへの授業改善 先進校視察  
習熟度別年間指導計画の作成（TTを含む）

中中連携 令和7年度入学生の教科指導

##### (2) 勝山市教育研究会（研究会）との連携

中学校は研究会の各部会内に部会長以外の学校から2名の推進員を置く。

勝山高校は窓口となる担当者を置く。各協議には市教委担当者も参加。

中高連携 授業交流や情報交換など必要に応じて

中中連携 備品等精査

## 第2回勝山市中高連携推進委員会記録

令和7年3月14日(金)

於：教育会館 第1研修室

### (1) 令和6年度の各部会の協議内容について

#### 各部会より協議の内容を説明

- ・総合的な学習の時間に扱う内容が多い。72時間の中でふるさと教育 福祉学習など学年を決めるなり、焦点を絞るなりしないと中途半端になってしまう。学校行事の準備なども入ってくると生徒は昼休みもなく忙しくやっている。新中学校になると人も多くなってもっと大変にならないかと危惧している。バランスの取れたカリキュラムが必要になると思う。
- ・進路支援部会では県の大谷指導主事より、ふるさと教育はキャリア教育の一部と考える方針を聞いた。また、探究部会では探究とキャリア教育を組み合わせた指導計画を作成している学校の事例が紹介された。それぞれ別のもとは考えず、子どもたちの活動がキャリアの積み上げにつながっている形でカリキュラムをつくるなど、学校が主体的にカリキュラムをつくれるといいと感じている。

### (2) 令和7年度活動方針について

#### 事務局より次年度に検討すべき議題を説明

- ・教育研究会との連携に関しては、年度当初の中教研部会長において、教育研究会と協議会が連携して中高連携にかかわる業務を進める意向を伝えると良いのでは。このあと各教育研究会の部会で共有すれば、多くの教員が理解できると思う。
- ・新年度の第1回協議会を4月11日に計画している。ここで新年度方針を固めることができれば、翌週4月18日の教育研究会の部長会・部会の開催時に協力依頼を予定している。
- ・それぞれの部会に中中連携、中高連携の議題が設定され、内容によっては他の担当者も巻き込んで協議するように書かれているが、これらすべての会議を部会が担当することになるのか。
- ・今年度は純粋に中高の先生が集まる会のみを部会の会議としたが、実際には中学校の先生だけが集まって協議していることもあったと思う。次年度はこのような中学校の先生だけが集まる会議や、複数の部会が合同で協議しなければならない内容も出てくるかもしれない。議題に合わせて、会議の形態は決めていきたい。
- ・例えば部活動のことは中体連の会議で協議するなどして、議題とすれば新しい会議を開かなくても協議できるのではないか。
- ・中高連携以外の中中連携の部分の会議開催も部会長が行うのか。自分自身、この役割のほかに中教研部会長を2つ抱えている。全てのお世話は難しい。
- ・中中連携の部分は中教研の部会でやれば良いと考える。この意味で先ほど、教育研究会にしっかり検討内容を伝えておくべきだとの意見を言った。
- ・補足するが、2番の提案は教育研究会の各部会に各中学校代表からなる協議組織をつくっ

てもらうものである。この組織に協力いただければ中中連携の課題を検討していただけるものと思う。

- ・生徒支援部会で今後検討すべき課題を洗い出したが、他の部会と協議しなければならない課題が出てきた。このような部会間の調整はどのようにすると良いか。
- ・様々な課題が予想される。部会間だけでなく準備委員会の議論を待たなければ決められない内容も出てくるだろう。いずれの場合も事務局に相談いただければ調整する。
- ・進路部会と探究部会も調整が必要なことが予想される。事務局でなどで全体をみて調整してもらおうと良いのではないか。
- ・各会議には今年と同じように事務局が参加してもらえるのであれば、必然的に調整してもらえと思う。
- ・次年度の会議も事務局として市教委の誰かが入る予定をしている。こちらで調整することになると思う。新年度は今年のように、短い時間で協議が終わる内容とは思えない。できるだけ現場に負担をかけないような設定を考えるが、どうしても時間がかかることが出てくると思う。ご理解をお願いしたい。

## 資料 1 勝山市中高一貫教育推進協議会会則

### (設置)

第1条 勝山市における中高一貫教育を推進するため、勝山市中高一貫教育推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

### (実施校)

第2条 勝山市中高一貫教育実施校(以下「実施校」という。)は、勝山市立勝山中学校と福井県立勝山高等学校とする。ただし令和9年4月の勝山市立勝山中学校開校までの中学校は勝山南部中学校、勝山中部中学校、勝山北部中学校とする。

### (委員構成)

第3条 協議会は、実施校の教職員、福井県教育庁及び市教育委員会事務局の関係者をもって構成する。

2 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

### (会長等)

第4条 会長は勝山高校校長とし、協議会の会務を総理し、及び会議の議長となる。

2 副会長は、実施校の中学校長とし会長が指名する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (所掌事務)

第5条 協議会は会長が招集し、次の各号に掲げる事務を所掌する。

- (1) 実施校の校長が編成する教育課程について協議すること。
- (2) 実施校の特色や地域の実態に応じた中高一貫教育の推進に関すること。
- (3) その他、必要な事項

### (中高連携推進委員会)

第6条 協議会に、中高一貫教育実施に係る連携の有り方を研究をすることを目的として、中高連携推進委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、実施校及び市教育委員会の関係者をもって構成する。

3 委員会に委員長、副委員長を置く。

委員長、副委員長及び構成員は、会長が指名する。

4 委員長は必要に応じ会議の経過及び結果等を推進協議会に報告する。

5 連携推進にあたり、必要に応じて県教育庁高校教育課及び関係課の助言を求めることができるものとする。

(部会)

第7条 委員会に、次の表に掲げる部会を設置し、事務を所掌する。

部 会	所 掌 事 務
教育課程部会	・教育課程の編成に関する事
進路支援部会	・キャリア教育及び連携生徒、入学者選抜に関する事
生徒支援部会	・学校行事、生徒会活動、部活動など生徒交流に関する事 ・通学方法や生活のルール等に関する事
教科部会	・学力・学習意欲の向上に向けた教科の連携等に関する事
探究部会	・探究学習の推進に関する事 ・大学、研究機関、企業、行政、地域等との連携に関する事

2 教科部会の設置教科については、年度ごとに協議会において決定する。

3 部会長及び部会の構成員は、会長が指名する。

4 部会長は、必要に応じ会議の経過及び結果等を委員会に報告する。

(事務局)

第8条 協議会の事務は、協議会事務局において処理する。

2 事務局は、市教育総務課に置く。

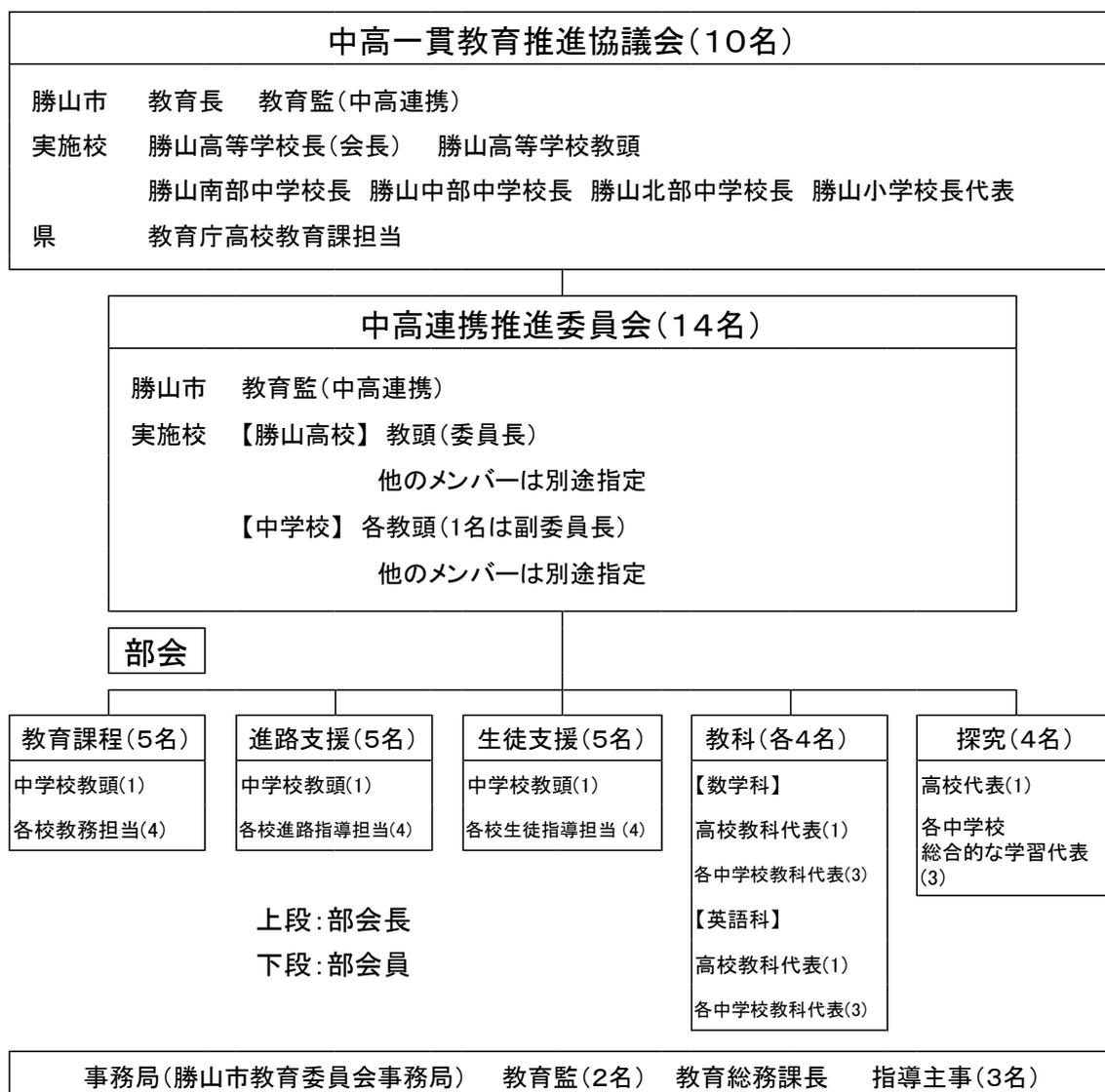
(委任)

第9条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

附則

この会則は、令和6年11月29日から施行する。

資料 2 勝山市中高会移管教育推進体制



資料 3 委員名簿

令和6年度勝山市中高一貫教育推進協議会委員名簿

	氏名	所属および職名	備考
1	朝倉剛司	福井県立勝山高校校長	会長
2	青木慎恵	福井県立勝山高校教頭	推進委員会委員長
3	油谷 泉	勝山市教育委員会教育長	
4	道関直哉	勝山市教育委員会教育監（中高連携）	
5	田邊千智	勝山市立勝山南部中学校校長	
6	北川喜樹	勝山市立勝山中部中学校校長	副会長
7	斎藤 治	勝山市立勝山北部中学校校長 （勝山市中学校校長会長）	
8	道関実代子	勝山市立成器西小学校校長 （勝山市小学校校長会長）	
9	渡邊久暢	福井県教育庁高校教育課参事	
10	石田昌也	福井県教育庁高校教育課主任	

1	伊藤浩行	勝山市教育委員会教育監	事務局
2	西澤順子	勝山市教育委員会教育監（幼小連携）	事務局
3	安岡由佳里	勝山市教育総務課長	事務局
4	林 裕美	勝山市教育総務課指導主事	事務局
5	鳥山美季	勝山市教育総務課指導主事	事務局
6	金田俊介	勝山市教育総務課指導主事	事務局

令和6年度 勝山市中高連携推進委員会 部会構成員

推進委員長 青木慎恵（勝山高校）

	部会長	勝山南部中	勝山中部中	勝山北部中	勝山高校	事務局
教育課程部会	前田宏治（勝山南部中）	笠川 武浩	平野 能則	栗田 隆行	前田 英明	道関
進路支援部会	村田浩顕（勝山北部中）	西野 尚博	丹後 幸子	石倉 玲子	近藤 雅文	道関
生徒支援部会	大倉和代（勝山中部中）	山口 忠範	松山 強	田畑 亮祐	牧野 智幸	道関
英語部会	近藤敦子（勝山南部中）	近藤 敦子	嶋田 裕美恵	平林 育美	西出 七海	鳥山
数学部会	斎藤 治（勝山北部中）	南保 勝人	伊藤 良子	斎藤 治	竹永 耕大	林
探究部会	野坂 智裕（勝山高校）	秋山 昂之	笠川 裕史	原谷 雄大	野坂 智裕	道関